

2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第9戦  
S第49回 MFJグランプリ スーパーバイクレース in 鈴鹿  
三重県 鈴鹿サーキット (1周=5.821km)

■ 渥美 心 JSB1000

Race1 予選:24番手 (タイム:2分10秒949) 決勝:24位

Race2 予選:24番手 (タイム:2分10秒949) 決勝:18位

☆シリーズランキング:18位

■ 岡崎静夏 J-GP3 予選:19番手 (タイム:2分22秒907) 決勝:13位

☆シリーズランキング:15位

天候:2017年11月4日(土) 曇り コース:ドライ

11月5日(日) 快晴 コース:ドライ

観客動員数: 28,000人 (2日間合計)



**080** 渥美 心 Cocoro Atsumi  
class : JSB1000  
machine : Honda CBR1000RR

**6** 岡崎 静夏 Shizuka Okazaki  
class : J-GP3  
machine : TSR3



## 結果以上に成長した2人のライダー

2017年シーズンも三重県・鈴鹿サーキットで最終戦を迎えた全日本ロードレース選手権。JSB1000クラスは、今年も2レース制となっており、レース1は8周、レース2は20周で行われる予定となっていた。事前テストはなく、通常より1日早く木曜日の特別スポーツ走行からレースウィークがスタート。天気にも恵まれ4日間ともドライコンディションでスケジュールが進んでいった。

SRS-J出身で鈴鹿をホームコースとしている渥美は、JSB1000クラスの開幕戦となった鈴鹿2&4以来の走行となっていた。このときは、2分08秒667を記録し予選10番手につけていただけに、さらなる上位を狙っていたが、初日、2日目とマシンセットに苦戦し、2分11秒を切れないでいた。J-GP3クラスの岡崎もマイナートラブルを抱え、その原因を追及するが、なかなかタイムアップできない状況だった。

JSB1000クラスの公式予選は、今回もノックアウト方式で行われ、Q1でレース1の11番手以下とレース2の、Q2でレース1の上位10台のグリッドが決められた。渥美は、何とか2分10秒台に入れるものの24番手と不本意なポジションとなってしまう。岡崎も問題を解決できないまま予選を迎え19番手と、こちらも不本意なグリッドとなっていた。ただ、予選後にトラブルの原因が分かり、決勝日朝のウォームアップ走行で確認。マシンのフィーリングは、よくなってきており決勝での追い上げを決意していた。



12周で行われたJ-GP3クラスの決勝。トラブルが解消した岡崎は、予選タイムを上回るペースで走っていたが、前の集団についていけず12番手で単独走行となる。レース中盤には、後方から追い上げて来たマシンにかわされ13位でチェッカーフラッグを受けた。

JSB1000クラスのレース1は、スタート直前のウォームアップランでストップしたマシンがありデレィ。1周減算され、7周という超短期決戦で行われた。仕切り直しとなったため、その間にタイヤが冷えてしまった渥美は、なかなかペースを上げられないうちにゴールという不完全燃焼なレースとなった。レース2では、レース1での問題をアジャストし、20周を冷静に走り切り18位でチェッカー。6ポイントを加算し、2017年シーズンを戦い終えたのだった。

### 渥美 心コメント

「鈴鹿はホームコースですし、開幕戦のイメージもよかったですので集大成にしたかったのですが、意外とセットアップに苦しんでしまい思うように攻められず悔しいレースになってしまいました。レース1は大幅にセットを変えていったのですが、スタートデレィもありタイヤが冷えてしまい、なかなかペースを上げられないまま終わってしまった感じでした。レース2は、そこを改善し普通に走れるようになったので追い上げて行きましたが何とかポイントを獲得した感じでした。今年はJSB1000クラスに参戦させてもらいましたが、昨年までの経験よりも、ほぼ新しく学ばなければいけないことばかりでした。ご支援いただいた全ての皆さんに感謝いたします。まだまだ速くなりたいと思っていますので、今後とも、よろしくお願いいたします」

### 岡崎 静夏コメント

「公式予選までマイナートラブルを抱えていて、その原因に早く気付けなかったことが敗因です。気付いてからは、マシンはよくなって行き、決勝では、予選以上のタイムで走れましたが時すでに遅しでした。もっと早い段階で気付き、マシンを上げることができていれば、もっと上を走ることができたと思います。今シーズンは、なかなか噛み合わないレースが多かったのですが、その中で、トップ争いができたレースもありましたし、この経験を生かして行きたいと思っています。2017年も多くの応援本当にありがとうございました」

### 小原 齊監督コメント

「JSB1000クラス1年目の渥美は、勉強のシーズンでしたが、あわよくば上位で走れるのでは、と期待していましたが、結果につながりませんでした。本人も歯がゆかったと思いますし、力を出せる状況にできなかったことはライダーに申し訳なかったですね。岡崎もライダーの調子は悪くなかったのですが特に前半戦は噛み合わないレースが続きました。後半戦から巻き返そうと思っていましたが、最後まで、うまく行きませんでした。2017年シーズンも多くの方のご支援、ご協力をいただきました。本当にありがとうございます。まだチーム体制は決まっていますが、来シーズンもレース活動を行っていく予定です。引き続きKohara Racingをよろしくお願いいたします」

